

おきなわ市トピックス

NEWS TOPIC

6/11
・12



Photo by 岸田哲平



Photo by 岸田哲平



Photo by 岸田哲平

Okinawa Dream Sessions 2022

沖縄アリーナのグランドオープニングイベント「Okinawa Dream Sessions 2022」が、2度の延期を経て開催となりました。

DREAMS COME TRUEをメインゲストに迎え、県内のU15/U18選抜ダンサーズがDREAMS COME TRUEの曲に合わせてパフォーマンスを行う『ドリカムディスコ』で会場を盛り上げ、ナオト・インティライミ、JUON、サプライズゲストのきいやま商店の他、琉球民謡や琉球ゴールデンキングスの岸本隆一選手と今村佳太選手のスペシャルトークショーなど豪華ゲストの共演が実現しました。



来場したファンは「2度の延長の末の本当に待ちわびた開催だったので、すごく思いが溢れた1日でした」と目を輝かせました。

熱狂の最後に登場し、ヒット曲「何度でも」でスタートしたDREAMS COME TRUEのライブパフォーマンス。ヴォーカルの吉田美和さんが曲のサビで、コロナ対策として声を出せない観客へ「今日は心で叫べ!!」とコールすると、熱気のレスポンスが波になりステージへ。会場のボルテージは最高潮となり、待ちに待った“夢のセッション”となった2年越しのグランドオープニングイベントは大盛況のうちに幕を閉じました。

6/27
~7/3



バレー金メダリストのプレーを堪能

東京2020オリンピックで金メダルを獲得したフランスバレーボール男子代表チームが、バレーボールの国際大会「FIVBバレーボールネーションズリーグ2022」の予選ラウンド大阪大会に向けて、沖縄市体育館で合宿を行いました。

6月29日には歓迎式が行われ、フランスバレーボール男子代表チームのアンドレア・ジャーニ監督は「去年の沖縄合宿の後にはオリンピックで優勝することができました。今大会も優勝できるように頑張ります」と意気込みを語りました。

桑江市長は「再び本市で合宿が開催されることを大変嬉しく思います。厳しい練習とリラックスできる環境の中で、チームの力をさらに蓄え、最高のコンディションで大会に臨んでほしいと思います」と歓迎のあいさつを述べました。

7月2日には市内外の小中高生バレーボール部員らが紅白戦を観戦し、次々と繰り出される迫力あるプレーに大きな拍手を送るなど、世界一のプレーを堪能していました。



6/24

県市から世界へ～BREAKIN'の世界大会がアジア初上陸 大級のBREAKIN'国際大会「Battle Of The Year」



アリーナで世界最大級の BREAKIN' 国際大会

一般社団法人アーバンスポーツ&カルチャーコミュニティの鈴木晶雅代表理事と理事でダンサーのTAISUKEさん、桑江市長が、市役所で記者会見を開き、ブレイキン(ブレイクダンス)の世界最大級の国際大会「Battle Of The Year」決勝大会を沖縄アリーナで開催することを発表しました。

同大会は、1990年代にドイツでスタートし今年が31回目。参加国は世界中を網羅しており、過酷な予選を勝ち抜いた15～20チームが決勝大会に進出し、世界の栄冠を目指して競い合います。

同大会に数多く出場するなど日本のブレイキンシーンに影響を与えるTAISUKE

さんは「次の時代を担うこども達にもぜひ見てほしい、舞台に立ってほしいです。沖縄での開催が、日本のブレイキンシーンのさらなる発展につながることを願っています」と思いを語りました。

ブレイキンは、2024年パリオリンピックの正式種目に採用され、世界中で注目を集めています。

6/14



FC琉球夢ボールプロジェクト

FC琉球の村瀬悠介選手と山下令雄選手が泡瀬小学校を訪れ、こども達へサッカーボールを手渡しました。

当プロジェクトは、コロナ禍で多大な影響を受けている観光立県沖縄のこども達にスポーツの楽しさや夢を持つ大切さを感じてもらうように、県内の全小学校266校にサッカーボール4個ずつ計1,064個を贈るものです。ボールのデザインは県内在住の小学生より公募し、グランプリに選ばれたものが採用されました。

児童から選手への質問タイムの後には、松尾剛校長と代表児童へオリジナルデザインのサッカーボールが贈られました。

7/1



笹の葉さらさら～市役所にゆれる♪

緑化ボランティア活動の一環として、沖縄市緑化会が市役所に七夕用の竹を寄贈しました。

比嘉太地副会長は「コロナの影響で3年ぶりの寄贈となりました。これからも積極的に緑化活動を行っていききたい」とあいさつしました。

同日、すこやか未来保育園の園児35人が市役所を訪れ、可愛い文字や絵が描かれた色とりどりの短冊を飾り付け、高い枝へ結ぶ際は緑化会会員が抱き上げサポートするなど、微笑ましい様子が見られました。

6/23



『カラフル涼やかに』文化交流

本市の姉妹都市である山形県米沢市にて、6月定例議会最終日に、議会出席者全員がかりゆしウェアを着用する「かりゆし議会」が開催されました。

「かりゆし議会」は、沖縄市との姉妹都市提携を記念したもので、令和元年度から開催されています。

米沢市とは、両市の小学生による親善訪問やエイサーなどを通して地域文化と心の交流を深めています。



6/16



Rude-αさん平和への思いを込めCD寄贈

本市の魅力を広く発信する「ちゃんぷる〜沖縄市大使」でミュージシャン・ラッパーのRude-α(ルードアルファ)さん等が市役所を訪れ、平和への思いを込めた新曲「うむい」のCDを市内全24小中学校への寄贈を報告しました。

Rude-αさんは「僕たちは戦争体験者の生の声を聞ける最後の世代だと思う。僕にできることは、沖縄の太陽や海、米軍基地問題、痛みなど見えているものをこども達に伝えていくこと。音楽を通して、お互いの感情や温度を感じられる美しい世の中にしたい」と曲に込めた思いを語りました。

6/22



防災の大切さを広めたい

今年4月に県内最年少の防災士となった沖縄東中学校1年生の喜友名朝陽(あさひ)さんが泡瀬小学校を訪れ、防災クラブで「避難所設営ワークショップ」を行いました。

簡易トイレやテント等の組み立て作業を喜友名さんと児童と一緒に、防災グッズの使い方と災害時の心得を楽しみながら習得できる内容となりました。

喜友名さんは「防災士の資格をたくさんの子が取得して、僕自身の最年少記録を更新してもらいたい」と頼もしい笑顔を見せました。

7/1



“社会を明るくする運動” 出発式

「更生保護の日」である7月1日、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない社会を築こうとする「第72回社会を明るくする運動」の出発式が、市役所で行われました。

中部保護区推進委員会の島袋邦男委員長が内閣総理大臣のメッセージを読みあげ、桑江市長に手渡しました。

7月は運動の強調月間であり、講演会や小中学生を対象とした作文コンテストなど、全国的な活動が行われました。

7/1



市役所に開所 コザ信金出張所

本市の指定金融機関となったことを受け、コザ信用金庫(金城警理事長)が市役所1階に本店営業部の出張所を開所しました。

開所セレモニーで金城理事長は「地域の方々やお客様の課題を解決し、沖縄市の発展に協力していきたい」とあいさつしました。

桑江市長は「相互扶助・共存共栄の精神で地域社会に貢献する地元金融機関であるコザ信用金庫には信頼を寄せており、今後さらなる協力関係が築かれていくことを期待いたします。」と述べました。

6/17



市文化協会が新役員を紹介

沖縄市文化協会の立津文堂会長等が市役所を訪れ、桑江市長に新役員を紹介と、今年度の活動報告を行いました。

新たに役員となったのは比屋根清隆副会長(美術部)と渡慶次秀峰専務理事兼事務局長(書道部)で、「昭和30年に設立された協会の先輩たちの熱い思いを継いでいきたい」「先輩方が築いてきたものを大事にしていく」とあいさつしました。

同協会は今年10月に、3年ぶりとなる沖縄市文化祭の開催を予定しています。

特集

市政トピックス

連載コラム

市民カレンダー

おでかけカレンダー

おしらせ